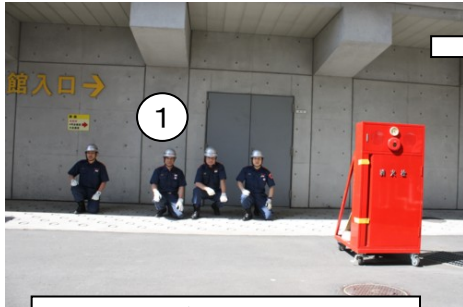


屋内消火栓操法実施要領

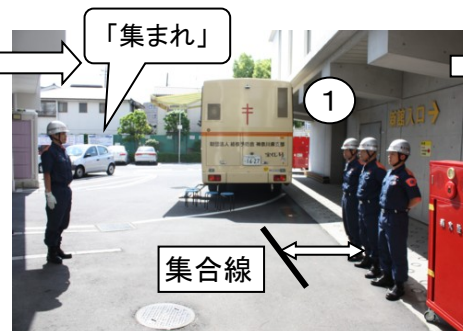
〈 1 番 員 〉



左足を肩幅に開く

左足を開くと同時に腰で手を組む

ベルトの上で右手を左手で包む



「想定を示す。火点前方標的、屋内消火栓操法。」



指揮者の想定を受ける

「よし」



指揮者の「操作—始め」の号令で「よし」と呼称し

「操作—始め」



深い左向けをし消火栓箱の方を向く



腰に手を上げ、駆け足で消火栓箱の左側に向かう



消火栓箱左側に左足を前にして停止



一度手を下げ



他の番員も同時に移行しますのでこの様な配置になります



筒先と左側のホースをつかむ



筒先を外しホースを抜きます



両手で胸に付ける



右手を下にずらし持ちかえながら



ホースを抱え込みながら、左足を上げながら右足を軸に左に回転する



回転終了時、完全に右脇に抱え込んだ体勢となる



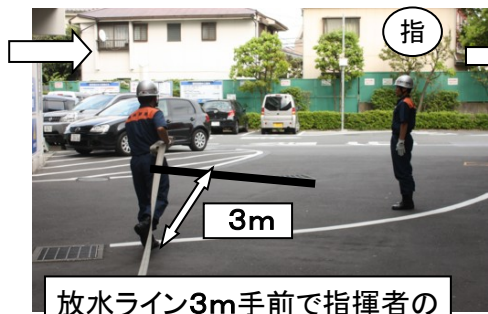
駆け足でホースを抱えたまま15mくらい進むと2番員のホースが延長されると、後に引かれ折りたたまれているホースの上側から後方に落ちていくので※一度に半分以上が落ちないように延長します

「放水始め」



「よし」

15m付近で2番員が「よし」と呼称するので「放水始め」と呼称する



放水ライン3m手前で指揮者の「止まれ」の号令がかかる



指揮者の横、2mの位置で基本注水姿勢をとる



「伝達おわり」

「よし」

水が出ると同時くらいに2番員が「伝達おわり」と呼称するので「よし」と呼称し6m先の標的に向け放水する



「放水止め」

標的が倒れ係員の赤旗が振られ、指揮者の「放水止め」の号令で「放水止め」と復唱す



2番員が伝達に行っている間は水は出ているのでそのまま基本注水姿勢を維持する



「よし」

2番員の「伝達おわり」の呼称で「よし」と呼称すると同時に左足を引きつけ、ノズル部(細い方)を右手に持ちかえ姿勢を正す



「おさめ」

指揮者の「収め」の号令で「よし」と呼称



右足でホースをまたぐ



左足で結合部近くのホースを踏み



両手で離脱環を押し上げる



筒先を外しノズル部を左手で持ちかえ



指揮者に渡す



筒先をわたした後、この位置に移動し



2番員と協力しホースのねじれを取りながら伸張する



一歩踏み出し巻き始める



オス金具をきつく折り巻き始める



十分腰を下げ、地面に押しつける様に、固く巻いていく



このくらい巻いたら徐々に速度を上げながらさらに巻いていく(転がす感じで)



左足を前にし巻き終わり、メス金具を軸にホースをたてる



左足の内側でメス金具を軸にホースを右に回す



この様に持ちかえる



右脇に持って行く

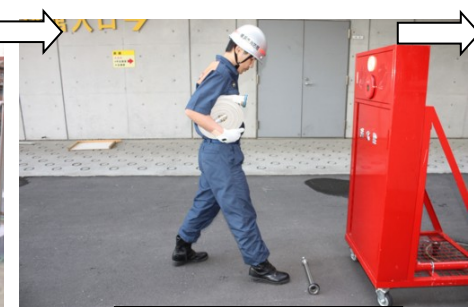


Point
メス金具をしっかり挟み込む

右脇でしっかり抱え込み



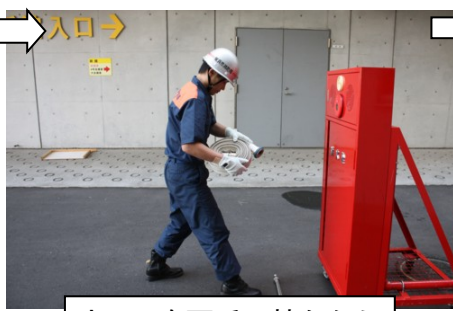
Point※消火栓箱の中心の延長線上に右足を置く



消火栓箱正面で右足を前にし停止し



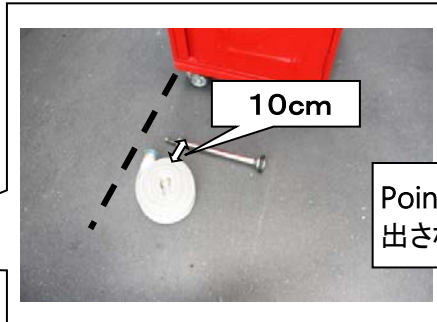
一度左手を下げ



ホースを両手で持ちかえ



右足の内側に付ける感じで、メス金具を左側で前になるようホースを置く



10cm

Point※消火栓箱からはみ出さないように



左に向きをかえ



集合線に向け駆け出す



1 2 3

「点検報告」

「1番員異常なし」

2番員異常なし

3番員異常なし

指揮者の「点検報告」の号令で

よし



「わかれ」



敬礼



胸をはります

Point※指揮者より先に上げ指揮者が下げた後に下ろす。

